

FUTURA の噂話を検証する

立野竜一

● Futura の噂話とは何か

こんな話を聞いたことがないでしょうか？
「欧文書体 Futura にはナチスのイメージがあるため、今でもドイツやイスラエルではその使用はタブーである。」

私の記憶では、この話は 90 年代の前半から聞かれるようになり、2000 年あたりから書籍や雑誌にも書かれるようになりました。この『d/SIGN』誌でも、2001 年の創刊号で渡辺慎太郎という人が“活字書体のナショナリティ”と題して、Futura の話を具体的なエピソードとともに紹介しています。

これに対し、2004 年の『デザインの現場』10 月号で、ドイツ、ライノタイプ社のタイプディレクター小林章氏が、デザイナーからの質問に答える形で、日本で言われているこの話はまったくの間違いであることを発表しました。小林氏は、有名な書体デザイナーである Hermann Zapf 氏や Matthew Carter 氏に直接質問し、「そんな話は初めて聞いた。間違っている。」との回答を紹介しています。他に、Paul Renner (Futura のデザイナー) の伝記を書いた Christopher Burke 氏やイスラエルのタイポグラファーなど、多くの人にインタビューした結果として、「欧米やイスラエルのプロフェッショナルの持つイメージはナチスと正反対のようです」と結論づけています。事実上、この噂話を否定した形です。

これはどういうことでしょうか？
渡辺慎太郎氏の文章はあまりにエピソードが具体的なため、それを読むと信憑性を感じてしまいます。

ここにその冒頭部分を引用します。
「担当者は慌てていた。大阪に本社を置く大手家電メーカーがイスラエルに出荷したビデオデッキ 3 万台が、すべて返品されてきたからだ。製品は仕様をたしかに満たし

ている。しかしイスラエル側は憤慨しており、違約金を払ってでもビデオデッキは受けとれないという。担当者には、何がなんだか理解できない。

広告代理店を通じて調査した結果、製品ではなくマニュアルに不備があるらしいことがわかってきた。だが、べつに誤植があるわけではない。結局わからずじまいのまま、ある書体専門家に調査がゆだねられることになる。FAX で送信されてきたマニュアルを見た専門家は、その不備を瞬時に悟った—フーツラのせいだ。

フーツラは、幾何学的でスマートなサンセリフ書体である。デザイナーが「カッコいい」と感じて選んだこの書体はしかし、ナチスと強く結びついているのだ。ヒトラーが愛用した書体、アウシュビッツ駅の文字に使われた書体、それがフーツラに着せられたイメージだった。フーツラの使用はドイツではタブー視されており、隣国オランダでもそれに近い。その書体がイスラエルでどのように受け止められるかは、もはや書くまでもないだろう。」

小林氏の雑誌記事を読んだとしても、この話を聞いてしまうと本当はどちらが正しいんだろうと感じてしまうでしょう。知り合いの美術大学の先生は、学生からどちらが正しいのか質問されて答えに困ったそうです。

“Futura のエピソードは本当にあったことなのか？”
そして、小林氏の主張は本当なのか？”
2 つを同じ俎上にのせて検証します。

●ビデオデッキのエピソードを検証する

このビデオデッキのエピソードには特定の名前は出てきませんが、大阪の大手家電メーカーであればほぼ 3 社にしばられます。直接 3 社の広報に聞いてみました。

シャープ、サンヨーからは「そういうことは当社ではありませんでしたし、そういう話は聞いたこともありません」とはっきり回答してもらえました。松下電器の広報の方も

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z
1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

やはり「そういう話は聞いたことがない」とのことでしたが、「グループ会社で組織が大きく、ビデオデッキの販売は昔の話でもあり全社的にこの話を検証するのは難しい」との回答でした。

広告代理店としては、博報堂、大広、電通に直接聞いてみました。博報堂、大広からはやはり「そういう話は聞いたことがない」、電通は「顧客に関することは一切お答えできません」と、この話の概要すら伝えられませんでした。

また、ビデオデッキ 3 万台もの返品騒ぎであれば、外部団体に報告されているのではと思い、以下の団体に直接問い合わせしてみました。

(社団法人) 全国家庭電気製品公正取引協議会
経済産業省
JETRO (日本貿易振興機構)
イスラエル大使館

どこからもこのエピソードを裏付ける話はありませんでした。みな様に「そんな話は聞いたことがない」とのこと。

調査の結果、100%このエピソードを否定できたわけではありませんが、少なくともこういう事実があった形跡は見つけることができませんでした。

●アウシュビッツの駅に Futura?

渡辺氏の文章には、「アウシュビッツ駅の文字に使われた書体」との記述もあります。しかし、調べてみるとそのアウシュビッツ駅の写真が出てこない。ポーランドにあるアウシュビッツ博物館に長く勤めておられる日本人の方にこの件を聞いてみたところ、「そもそも駅の写真のようなものは、戦時中は国家機密にあたる重要なものだから残っていないと思う。私自身ア

ウシュビッツ駅の写真も、Futura が使われていた写真も見つけない。」とのことでした。(これに関しては、BBC の 2004 年のニュースの中に、“アウシュビッツにはある時期、駅舎があって、普通の駅に見せかけるようにサインや時刻表も書かれていた”という最新の記述がありました。写真は確認できていません。)

渡辺氏の文章には他の箇所に、「... その一方で宣伝相ゲッベルスは『ドイツ民族の言葉、ドイツ民族の書体』運動を企画し、先のフーツラとフラクツールとをドイツ民族の書体と定めた。」と書いていますが、これはまったくの事実誤認です。ナチスがフラクツールを強要したのは事実ですが、Futura をドイツ民族の書体と定めた、とする事実はありません。そんな資料もないはずです。

●海外のデザイナーに聞いてみる

私自身、Futura に関する別のエピソードを日本で聞いたことがあります。

「あるところで国際会議があり、そこに使われる席次表の各国代表の名前を Futura で印刷して使用したところ、イスラエル代表がそれを見て怒って帰ってしまった。」
というものです。その話をした人は「海外では有名な話だ」とも言っており、先のビデオデッキの件とあわせて海外のデザイナーに聞いてみることにしました。

イギリスやアメリカのタイプカンファレンスに参加し、何人ものグラフィックデザイナーやタイポグラファーにこれらの話を聞いてみましたが、やはり、誰もそんな話を知りませんでした。多くの人はこれらの話を聞いてびっくりして否定し、そうでなければ一笑に付されてしまいます。

昨年、イギリスで開催された国際タイプカンファレンスで、発表者として参加していたイスラエルのグラフィックデザイナー、Yaki Molcho 氏にも聞いてみました。日本

で広まっている Futura とイスラエルに関する噂話、ビデオデッキのエピソードと国際会議の席次表の話を伝え、イスラエルの人が Futura を見てナチスを思い出したりすることがあるのかどうかを率直に聞いてみました。

「私の友人たちにも聞いてみたが、誰もそんな話は聞いたことがない。私自身時々 Futura は使っているし、友人たちも Futura を使ったことで、誰かから抗議されたなんてことはない。当然のことだが、ナチスに関することには非常に敏感な部分がある。もし偶然イスラエルのグラフィックデザイナーが、ナチスのシンボルや書体を想起させるものをデザインしてしまったら、たとえそれがわずかであったとしてもその人は多くの批判を受けるだろう。日本のこれらの話はとても奇妙に思える。」

「私が知る限りでは、フォルクスワーゲンやオペルなどの車会社、イケア、他にもいくつもの会社が Futura か、あるいは似た書体をベースにしてロゴを作っている。そしてそれらはイスラエルで広くなんの問題もなく使われている。もしその噂話が本当だったら、その車会社はイスラエルでは製品を販売できないことになるじゃないか。」

「その Futura に関するビデオデッキや国際会議のエピソードは、まったく信用できるものではないと思う。日付も名前も書かれていないし、タイポグラファーでもない人が、Futura と Univers と Kabel の違いなんてわからない。その話はおかしいと思いますよ。」

- 海外サイトや雑誌を調べてみる

英語のウェブ検索でも、日本で言われているようなエピソードがないか探してみましたが、見つかりませんでした。ドイツ語での検索結果も同様でした。

正確を期すために書いておくと、「Futura」、「Nazis」で検索した結果として、1件だけ、「Futura は全体主義の時代に多用された書体 ...」と受け取れる記述がヒットしました。ワールドトレーディングセンターの跡地に作られた記念碑に、サンセリフ書体を使用したことに反対するある人の文章ですが、すぐに先述の Christopher Burke 氏などによってその意見は批判、否定されています。

スイスのタイポグラフィーの雑誌『Typographische Monatsblätter』の2000年5月号には、“Paul Renner がナチスと親しくしていた時期がある”との新説？を紹介した文章が載りました。しかしこの記事は批判を受け、再調査した結果、そういう事実がないことを翌年の1月号に3ページに渡って掲載しています。

このようにごくまれに Futura や Paul Renner に関して間違った意見を言う人が出てきたとしても、その都度、識者によって批判され正しく修正されるという健全なジャーナリズムが働いているのがわかります。

- Futura の歴史を正しく認識する

Futura 誕生前後の時代の概略を書いておきます。第一次世界大戦が終わった1918年にイギリスでジョンストンの地下鉄書体が完成しました。それまでの19世紀の野暮ったいサンセリフ書体とは違い、近代的な感覚のこの書体は評判となり、のちに Gill Sans が生まれます。モダンなサンセリフ書体を求める気運は、おそらく国同士が戦った大戦の嫌悪感や、戦後の新しい時代の空気感がベースにあったのでしょう。それまでずっとゴシック体に固執していたドイツも同様で、1922年には幾何学的なサンセリフ書体 Erbar が発表されます。このモダンな書体は一定の成功を収め、各活字会社は同様のサンセリフ書体を開発することになります。もちろん当時のパウハウス運動も影響をしていたでしょう。

ABCDEFGHIJKLMN OPQRSTUVWXYZ abcdefghijklmnopqrstuvwxyz

Jacob Erbar による Erbar 書体

Paul Renner によってデザインされた Futura は1927年にドイツのパウアー社から発表されます。デザインの初期段階にはかなり実験的な形態でしたが、結果的には Erbar をさらに幾何学的に整理して完成度を高めたようなデザインになりました。つまり、Futura はいきなり登場したのではなく、それ以前から同様のデザインの書体が知られていて、より良いサンセリフを求める気運の中で登場したわけです。当時の世界がもともといていた書体だったともいえると思います。

発表直後から Futura は大ヒットとなり、ドイツだけでなくフランスやアメリカなどでも Futura は販売され（フランスでは Europe の名前)、あっという間に世界中に認知された人気書体になりました。

ドイツではその後、1934年にナチスが第一党となり、それまでの流れとは逆行し“ドイツ民族はドイツの文字を使うべき”としてゴシック体のフラクツールの使用を強制することになります。モダンなデザインの Futura は迫害され、反ナチの態度をとっていた Paul Renner は投獄されてしまいます。

しかしナチスドイツが拡張し占領地が増えるに連れて、外国の人たちにはフラクツールは読むことができないため、この文字政策に無理があることに気がつきます。1941年に“シュワバッハ（フラクツールの一種）はユダヤ人が作った書体”との無理矢理な理由付けで、それまでの政策をやめ、一転してローマン体の使用を奨励するようになります。この時に“Futura を制定書体にした”などという事実はまったくありません。ただ、Futura の活字は印刷会社に残っていたはずで、ナチスが Futura を使った事例も探せば見つかるはずです。しかし、だからといって Futura= ナチスではない。むしろ、世界的な潮流にナチスもあらがえなくなり、優秀で世界に認知された Futura をナチスも使わざるをえなくなったわけです。

先に見たように今現在、Futura にナチスのイメージがあるなどという共通認識は、欧米やイスラエルにはまったくありません。

- どこから Futura の噂話は生まれたのか？

日本のこのおかしな噂話ははどこから発生したのでしょうか？当初は、日本のデザイン界で昔から言われ続けていたものかと想像していましたが、調べてみるとそういう記録や証言は発見できませんでした。

渡辺氏がビデオデッキのエピソードを聞いた人と、私が席次表の話を聞いた人は一致します。タイポグラフィーの著作で知られる、朗文堂の片塩二郎氏です。ビデオデッキのエピソードは、片塩氏が持ちネタのように人に話していたという証言もあります。片塩氏は本気で Futura にナチスのイメージがあると考えていたようで、自著で Futura= ナチスと受け取られる発言を繰り返していました。雑誌『編集会議』2003年10月号のインタビュー記事ではこうまで書いています。「フツーラ（ママ）という書体は、生まれた時代が不幸でした。1930年代でナチズムとくっついてしまった。だからイスラエルではまずいんです。ワグナーをイスラエルでは演奏しない。それと同じように日本ではいいけど、イスラエルではフツーラはまずい。」

驚くべきことにこの人は、まったくイスラエルの人に確認しないままこんなことを話してしまっているようです。

なぜこのような勘違いをしてしまったのか、ここからは私の推測です。

実際にイスラエルに輸出する製品で、マニュアルに Futura を使ったことでクレームがついた。それは単に小文字の a と o が区別しにくく、長い文章では読みにくいから書体を変えてくれないか、程度の話だった。メーカーのデザイナーはどのような書体にすればいいかわからなかったため、書体専門家として知られた片塩氏に相談した。もともと片塩氏は、書体はその国の歴史や文化を背負っているという過剰な思い込みがあったため、Futura=ドイツ=ナチス、イスラエル=ユダヤ、と連想し勝手に Futura にはナチスのイメージがあるからだ、と結論づけてしまったのではないか？ メーカー側としては小さな話であったため記憶されておらず、片塩氏は自身が体験したことであったため、確認もせずに人に話すようになっていった。

- 結論——Futura は未来へ向かう書体

映画『不都合な真実』のラストで、これからの世界中の人々への環境提言がモーションピクチャの文字で流れます。そこに使われていた書体が Futura でした。

右下は国連から発行された「ホロコースト犠牲者を追悼する国際デー」の記念切手です。図案は有刺鉄線と希望を表すバラの花。タイトル文字が英語、フランス語、ドイツ語で入っています

が、ここに Futura が使われています。Futura は国籍を問わず、そしてその名の通り未来に向かっての希望を感じさせる書体です。ナチスとはまったく逆のイメージであることがわかると思います。この名作書体を間違った噂話で使わなかったなんて馬鹿げています。

専門家が言ったことだからと盲目的に信じてしまったことが、この噂話を広めてしまった一つの要因です。渡辺氏



も『d/SIGN』編集部も、そして以前の私自身もそうでした。誰もが思考停止状態になっていたように思います。少しの時間をかけて自分で調べてみる、ということを誰もしなかった。おかしなエピソードだけが一人歩きしてあたかも事実のように浸透していってしまいました。

おかしいと思った時に、専門家まかせにするのではなく自分で調べてみる。そして自分の頭で判断する。大事なものはそういう態度だと思います。

Futura= ナチスと信じ込んでいる人はまだたくさんいます。もし周りにそういう人がいたら自信を持って否定してください。そして、胸を張って堂々と使ってください。

(2008年8月、季刊『d/SIGN』no.16に掲載)